

## 2006（平成18）年度活動報告

### 組織の状況

会員総数：112

地域組織 会員	名 称	分担金口数（所属会員数）	
	吉川日中友好協会	1口	（75人）
	新発田市日中友好協会	2口	（19団体；61人）
	栃尾日中友好協会	2口	（96人）
	中之口日中友好協会	1口	（25人）
	いわふね国際交流協会	1口	（5団体；54人）
	小計	5地域組織（7口）	
直 属 会 員	地域区分	会員数	個人会員数
	下越地区	32団体（43口）	新潟市 55人 その他 6人
	中越地区	1団体（1口）	5人
	上越地区	2団体（3口）	6人
	県外		
	小計	35団体（47口）	72人
合 計	5地域組織（7口）	35団体（47口）	72人

### 会議開催経緯

#### 〔1〕理事会

開催期日：2006年5月29日

会場：新潟国際友好会館

出席者数：32名（うち、委任状出席者18名）

議事：以下のとおり

1）2006年度総会に付議する事項の事前協議

(1)2005年度活動報告案と決算案について

(2)2006年度活動計画案と予算案について

- (3)任期満了に伴う理事・監事の選任について
- (4)顧問の一部異動に伴う顧問の選任について
- 2) 2005 年度総会の日程・運営等について
- 3) JICA 草の根技術協力事業 黒龍江省研修員の訪日について
- 4) 「新潟・白音諾勒村 “ふれあいの森” 植樹の旅 2006」の実施について

## 〔 2 〕 2005 年度総会

開催期日：2006 年 6 月 17 日

会場：ホテル新潟

出席者数：119 名（うち、委任状出席者 69 名）

議事：以下のとおり

- 1) 2005 年度活動報告と決算並びに財産目録・貸借対照表の承認
- 2) 2006 年度活動計画と予算の承認
- 3) 任期満了に伴う理事・監事の選任
- 4) 顧問の一部異動に伴う顧問の選任

## 事業実施の方針

草の根レベル開発協力事業として以下の二点を重点に事業を展開しました。  
事業展開に当たっては、会員・地域日中及び県民が参画し得る実施形態を執るよう努めました。

黒龍江省の辺境・貧困地域の生態環境の回復・保全、民生安定、地域経済の向上に資する以下のプロジェクトに取り組みました。

“嫩江流域荒漠化地区生態林建設協力事業”

“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”

## 特定非営利活動に係る事業

### 情報の発信

#### 〔 1 〕 会報の発行

発行期日：2007 年 3 月 30 日

発行部数：570 部

#### 〔 2 〕 インターネットによる情報の発信

当協会の Web サイト <http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/>

#### 〔 3 〕 電子メール・FAX による情報の伝達

## 草の根レベル開発協力事業の実施

### 〔 1 〕 “ 嫩江流域荒漠化地区生態林建設協力事業 ”

1) JICA 「草の根技術協力」(地域提案型)委託事業 “ 新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業 ” への参画

( 1 ) 事業実施機関：“ 新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力推進協議会 ”

( 2 ) 協議会事務局：新潟県日中友好協会

( 3 ) 協力対象機関：黒龍江省林業庁(外資項目弁公室)・黒龍江省森林与環境科学研究院

( 4 ) 事業の目的：以下のとおり

黒龍江省西北部嫩江流域の荒漠地における強風・飛砂・洪水等の被害防止や軽減、水源涵養等に効果を示す生態林建設技術と維持管理の向上に係る技術協力を行うことにより、森林資源の持続的利用、嫩江流域の農業生産性向上、地域経済活性化に寄与する。

( 5 ) 事業の達成目標等：以下のとおり

この事業は、丘陵区、平原区、風沙区に応じた「生態林造成ガイドライン」の策定とガイドラインの実証試験、継続調査が可能な生態モデル林の造成を達成目標とする。

( 6 ) 2006 (平成 18) 年度実施事業：以下のとおり

専門家派遣 下表のとおり

2006 年 5 月	派遣期間：5 月 10 日～5 月 19 日(10 日間) 派遣人員：春日健一・野表昌夫・平田敏彦 主要業務： 列状間伐実施後の状況等の調査 追加植栽と新規植栽に係る技術協力 派遣先：黒龍江省齊齊哈爾市・大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場 齊齊哈爾市甘南県甘南林場・齊齊哈爾市克山県北聯林場・哈爾濱市 成果：間伐区・新規植栽区の試験植栽が完了し、混交林(多様性のある生態林)を目指した新たな植栽地が形成された。 問題点とその対応策：以下のとおり 新店林場の新規植栽区... 予定苗木が入手困難なため樹種変更を行なった 新店林場の新規植栽区... 植え穴が基盤面より低いいため雨水貯留による生育不良を懸念し、植え穴の覆土を提案した 北聯林場の間伐区... 予定しないエリアを伐採したため、2007 年春に補植するよう提案した 北聯林場の新規植栽区... 植栽前的大豆畑に散布された除草剤による生育阻害が懸念される
---------------	---

研修員受入 下表のとおり

<p>2006年 6月</p>	<p>受入期間：6月25日～7月8日（14日間）                  受入人員：許成啓・畢広有・兪冬興・趙嶺・張劍斌・趙永哲（通訳 自費）                  主要業務： 日本における飛砂防備・水源涵養・水害防備等の保安林や生物多様性を目的とした林相改良等の状況についての研修                                    森林施策や維持管理の考え方並びに環境学習の現状などについての研修                                    森林の多様性や高度利用についての共通認識の醸成                  研修先：JICA 東京国際センター・阿賀町（里山林など）・新潟大学農学部・新潟市（海岸飛砂防備林など）・県森林研究所・山梨県森林総合研究所（カラマツ林改良施業地など）                  成果：研修のまとめとして以下の総括的発言を引き出すことができた                            海岸飛砂防備林の造成方法は、嫩江中下流域風沙区における防護林造成の参考となった                            林分の育成・保護管理方法は大いに参考となった（嫩江中下流域においては、林分の保護・育成管理水準が低い）</p>
---------------------	---

専門家派遣 下表のとおり

<p>2006年 8月</p>	<p>派遣期間：8月28日～9月6日（10日間）                  派遣人員：春日健一・野表昌夫・平田敏彦・荒谷明日兒・目黒修治・布川耕市・今野正敏                  主要業務： 追加植栽後・新規植栽後の生育状況等調査                                    列状間伐後の光環境改善状況・林床植生変化等の調査、新規植栽区と対照区の侵入植生調査                                    「生態林造成ガイドライン」策定に資する中国内研究資料及び林場周辺の土地利用状況や社会環境に関する資料の収集・解析                                    間伐材利用状況等の調査                  派遣先：黒竜江省齊齊哈爾市・大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場                            齊齊哈爾市甘南県甘南林場・齊齊哈爾市克山県北聯林場・哈爾濱市                  成果：以下のとおり                            試験植栽後の育成状況を把握した                            （全天空写真撮影による）光合成有効光量子束密度解析により、生物多様性増加に必要な光量の把握が可能となった                            （間伐後の林床植生変化調査及び新規植栽区と対照区の侵入植生調査の結果）既存防護林の混交林への遷移誘導に当り、下種更新を活用し得る見通しを得た。                  問題点：以下のとおり                            新店林場の新規植栽区...放牧家畜による食害や踏圧、植え穴の覆土不十分などにより活着が阻害された                            北聯林場の新規植栽区...除草剤や放牧家畜による食害・踏圧により活着が阻害された</p>
---------------------	---

2) 「新潟・白音諾勒村 “ふれあいの森” 植樹の旅 2006」の実施

- (1) 旅行期間：2006（平成 18）年 7 月 19 日（水）～7 月 23 日（日）
- (2) 旅行企画：新潟県日中友好協会・黒龍江省人民政府外事弁公室・黒龍江省人民対外友好協会・杜爾伯特蒙古族自治県林業局
- (3) 旅行実施：(株)中国観光社・(申込...コスモトラベルビューロー)
- (4) 植樹参加者： 「新潟・白音諾勒村 “ふれあいの森” 植樹の旅 2006」参加者  
...長谷川義明会長ほか、計 23 名  
白音諾勒村小学校児童生徒・教職員及び白音諾勒村民約 65 名
- (5) 植樹の場所：白音諾勒村小学校裏手（2005 年植栽地の延長）
- (6) 植樹面積・株数：7 畝（約 47 a）・930 株（活着・補植後の株数）
- (7) 植樹種：樟子松（ヨーロッパ赤松）
- (8) 所要経費：日本円 217,000 円（詳細は、下表のとおり）

所要経費は、旅行参加者の協賛金 45,000 円と（財）新潟県国際交流協会の国際交流団体事業補助金 172,000 円により支弁し、白音諾勒郷人民政府に寄託しました。

（1 元 = 13.96 日本円にて計算 端数処理）

	単位	計算式	面積（畝）	単価（元）	金額（元）	円建金額（円）
整地費	110 穴 / 1 畝	単位 × 面積 × 単価	7	0.50	385.0	5,400
苗木費	110 株 / 1 畝	単位 × 面積 × 単価	7	5.00	3,850.0	53,750
植栽費	110 株 / 1 畝	単位 × 面積 × 単価	7	1.00	770.0	10,750
灌水費	(1 畝当り：10.00 元 / 桶 × 3 桶) × 7 畝 × 3 回 / 年 × 3 年				1,890.00	26,400
保護育成・管理費	(1 畝当り：100.00 元) × 7 畝 × 10 年				7,000.00	97,700
補植用苗木費	47 株 / 1 畝	単位 × 面積 × 単価	7	5.00	1,645.00	23,000

〔2〕“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”の実施

- (1) 事業内容：「新潟・白音諾勒村 “ふれあいの森” 植樹の旅 2006」に際し、白音諾勒村小学校への第三年次（最終年次）分協力金として日本円 50 万 4,000 円を持参しました。第三年次分協力金により購入・設置した教育設備機器の内訳と金額は、次のとおりです。

（1 元 = 14.03 日本円にて計算 端数処理）

	金額（元）	円建金額（円）
パソコン（@3,300 元 × 10 台）+ 専用テーブル（@100 元 × 10 台）	34,000 元	477,000 円
卓球台（@1,650 元 × 1 台）+ 付属品 270 元	1,920 元	27,000 円

特別会計“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業基金”の残高 470,867 円と、“希望工程”支援金から 33,133 円を繰り入れて支弁しました。

(2) “白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”三カ年のまとめ

購入・設置した教育設備

(単位：円)

	品 目	実 績		
		単価	数量	小計
第一年次 2004年	パソコン	3,400	10	34,000
	テレビ・DVD	2,800	1	2,800
第二年次 2005年	机・椅子	180	100	18,000
	複写機	13,000	1	13,000
	顕微鏡	150	8	1,200
	録音機	300	6	1,800
	投影機(OHP)	650	2	1,300
第三年次 2006年	パソコン	3,400	10	34,000
	卓球台	1,920	1	1,920
実 績 計				108,020

購入資金年次別協力額

(単位：円)

2004年	496,000	36,800 円 × RT13.47
2005年	475,000	35,300 円 × RT13.45
2006年	504,000	35,920 円 × RT14.03
合計	1,475,000	

事業収支決算書

(単位：円)

	予算総額 (3カ年)	実績総額 a+b+c	予算実績 増減 (3カ年)	実 績 額			
				第一年次 a	第二年次 b	第三年次 c	
収 入	自己資金(募金額)	620,867	654,000	33,133	616,867	4,000	33,133
	新潟・国際協力ふれあい基金	821,000	821,000	0	821,000	0	0
	計	1,441,867	1,475,000	33,133	1,437,867	4,000	33,133
支 出	助成申請経費						
	白音諾勒村小学校教育設備 機器購入資金支援	1,441,867	1,475,000	33,133	496,000	475,000	504,000
	計	1,441,867	1,475,000	33,133	496,000	475,000	504,000

事業の成果

1) 白音諾勒村小学校が必要とする教育設備機器は満たされ、教育条件は確実に改善されたと判断されます。

2) パソコンの教学体制と運用に係る問題は無いと判断されます。また、パソコン操作が必修となっている初級中学に進学するに当たって「他校卒業生とのハンディキャップが発生する」との懸念は解消されたと判断されます。

3)杜爾伯特蒙古族自治県テレビ局が積極的な報道体制をとり、ニュース放映を行いました。また、同県人民政府 Web サイトにおいても報道されたことにより、同県民の新潟県民に対する友好的感情は一層深まったと判断されます。

#### 今後の展望

第三年次事業実施の過程で、同校への通信回線敷設が未了であることが判明しました。通信回線の整備は、同校のインターネットを利用した遠隔教育の実施に不可欠であり、資金協力をいただいた多くの県民や関係機関との電子メール等による日常的な交流を可能ならしめます。

今後機会を得て、杜爾伯特蒙古族自治県教育局に対し通信回線を早急に整備するよう働きかけたいと考えていますが、延べ三ヵ年にわたる協力により確かな信頼関係を築くことができたと判断されることから、近い将来実現をみると展望しています。

#### 地域組織との連携強化

##### 〔 1 〕 新発田市日中友好協会創立 20 周年記念総会への参加

2006 年 8 月 4 日 今野正敏常任理事・事務局長

#### 政治・経済・文化芸術・人事など各分野にわたる交流の促進

##### 〔 1 〕 “ 中国東北地区友好・慰霊の旅 ” への協力

新潟県日中友好協会が後援しました

主催：“ 中国東北地区友好・慰霊の旅 ” 実行委員会（委員長 巻口 弘）

事業内容：柏崎開拓団跡地（哈爾濱市通河県）、二龍山開拓団跡地（五大連池市）訪問と慰霊

団構成：会田洋柏崎市長ほか、計 18 名

日程：2006 年 5 月 14 日～5 月 19 日

##### 〔 2 〕 劉徳有先生講演会 “ ところをつなぐ日中文化交流 ” の共催

奥村俊二理事長ほか計 5 名が講演会・歓迎会に参加しました

主催：新潟県文化振興財団

共催：新潟県・新潟市・新潟県国際交流協会・新潟市国際交流協会・新潟県日中友好協会

期日：2006 年 5 月 27 日

##### 〔 3 〕 “ 黒龍江省人民代表大会常務委員会代表団 ” 歓迎晩餐会への参加

長谷川義明会長が参加しました

主管：新潟県議会

期日：2006 年 7 月 31 日

〔 4 〕 “ 哈爾濱市訪問団との交流会 ” への参加

今野正敏常任理事・事務局長が参加しました

主管：新潟市（国際課）

期日：2006年8月5日

〔 5 〕 “ 三江平原龍頭橋ダム視察団 ” 派遣協力

黒竜江省水利庁・黒竜江省外事弁公室との連絡調整などの協力を行ないました

主管：新潟市土地改良区広域連携懇談会

事業内容：三江平原龍頭橋ダム現地視察ほか

団構成：上之山喜男亀田郷土地改良区理事長・新潟県日中友好協会副会長

ほか、計 17 名

日程：2006年9月1日～9月6日

〔 6 〕 “ 食と花の世界フォーラム ” 実行委員会への参画

食と花の見本市プレ 2006 に出展しました

主管：“食と花の世界フォーラム”実行委員会（事務局：新潟市産業経済局農林水産部）

主要事業：以下のとおり

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・食の国際シンポジウム<br/>（2006年10月12日 ホテル新潟）</li><li>・食と花の見本市プレ 2006<br/>（2006年10月13日～15日 新潟市産業振興センター）</li><li>・食と花のコミュニケーション・プロジェクト</li></ul> |
|---|

〔 7 〕 新潟・国際協力ふれあい基金助成プロジェクト

“ 杜爾伯特蒙古族自治県白音諾勒村スタディーツアー ” 派遣協力

下記のとおり協力しました

- スタディーツアー実施計画の策定に協力するとともに、黒竜江省側関係機関に協力を依頼しました
- 2006年6月1日 事前学習セミナーに今野正敏常任理事・事務局長を講師として派遣しました
- スタディーツアーにコーディネーターとして同行しました（今野正敏常任理事・事務局長）

主催：新潟県国際交流協会・新潟県国際理解教育推進協議会

協力：新潟大学・新潟県日中友好協会

事業概要：以下のとおり

国際理解教育指導案作成研究会を組織し、新潟・国際協力ふれあい基金助成プロジェクトをテーマとした教材を作成

新潟・国際協力ふれあい基金助成プロジェクトの現地スタディーツアーを実施



### モデル授業の実施

参考 : スタディーツアーの日程等

日程...2006年9月11日~9月15日

団構成 : 宮園衛新潟大学教育人間科学部教授・児玉康弘同学同部教授、大学院生  
5名、教育人間科学部4年生2名、同部3年生7名、同部2年生4名  
ほか、計22名

研修先 : 杜爾伯特蒙古族自治州白音諾勒村小学校(ふれあい基金助成PJサイ  
ト) 同県新店林場(JICA草の根技術協力サイト) ほか

参考 : モデル事業の実施概要

2006年10月24日...県立新潟西高等学校にて政治経済の授業(“対中ODAは  
今後必要か否か”)

2006年12月8日...新潟大学教育人間科学部附属中学校(“中国の荒漠化の原因  
と経済的立ち遅れの関連”)

2006年12月21日...県立村上中等教育学校(同上)

### 〔8〕新潟県(国際交流課)との意見交換

新潟県との協同を確かなものとするため意見交換を行ないました

期日 : 2007年1月18日

参加者 : 田中徹国際交流課長・長谷川義明会長ほか、計12名

協議事項 : 以下のとおり

嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業の現状と今後  
白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業の終了と今後  
黒龍江省との交流協力関係の今後

### 〔9〕黒龍江省外事弁公室代表との懇親会

2006年に黒龍江省を訪問した方々が集い黒龍江省外事弁公室代表と懇談しました

期日 : 2007年2月4日

参加者 : 徐廣明日本处处長・宮園衛新潟大学教授・上之山喜男副会長ほか、  
計16名

### 〔10〕黒龍江省外事弁公室代表との意見交換

2007年度の事業内容について意見交換を行ないました

期日 : 2007年2月5日

参加者 : 徐廣明日本处处長・平田敏彦新潟県対外科学技術交流協会副理事長・山本  
昭二副理事長ほか、計7名

協議事項 : 以下のとおり

嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業について  
2007新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹計画について

関係機関・友好団体との連携

- 1) 新潟県中国交流推進戦略会議
- 2) 中国総領事館新潟誘致促進協議会
- 3) 新潟県トキ保護募金推進委員会
- 4) 環日本海経済研究所 (ERINA)
- 5) 新潟県国際交流協会
- 6) “食と花の世界フォーラム” 実行委員会
- 7) 新潟・哈爾濱経済技術交流促進協会  
同協会Webサイトコンテンツ制作業務受託
- 8) 新潟市国際交流協会
- 9) 新潟・哈爾濱友好市民の会
- 10) 社団法人日中友好協会
- 11) 新潟県対外科学技術交流協会